

プライマリケアNP活動の成果 2025年度版



大分県立看護科学大学大学院
実践者養成NPコース



《入試情報など 問い合わせ先》

大分県立看護科学大学 教務学生グループ 大学院担当

【住所】 〒870-1201 大分県大分市大字廻栖野2944-9

【TEL】 097-586-4300

【メール】 info@oita-nhs.ac.jp

<https://www.oita-nhs.ac.jp/site/examination/366.html>

ご挨拶

本学では、2008年から大学院修士課程で診療看護師（NP）を育成し、とくにプライマリ領域のNPを育成しています。すでに92名が修了しました。このうち、県内の就業者数は35名で、病院や診療所、訪問看護ステーション、老健で活躍しています。

NPの働く病院の看護部長からは、NPが看護師の役割モデルとなった、看護ケアの質の向上に貢献した、看護部の組織の強みとなったなど評価していただいています。大分県の令和6年度から11年度までの第8次医療計画には、本学のNPの育成が取り上げられました。看護マネジメント能力と看護実践能力を有するNPは、チーム医療や医師とのタスク・シフト/シェアの推進において、医療機関や高齢者、障害児・者施設、訪問看護ステーションなど幅広い分野での活躍が期待されるとされています。さらに、NPコースのカリキュラムには特定行為研修が組み込まれているため、いくつかの行為や修了者の配置が診療報酬に算定されます。

本学のNPコースには地域枠5名があります。看護師として5年以上働いた方で、本学を修了後、大分県の地域医療に貢献する意志を持つ方が対象です。

NPコースは仕事と両立して進学する方も多く、講義は夜間でオンラインでも受講できる科目もあります。文科省の職業実践力育成プログラム（BP）に認定されており、厚労省の専門実践教育訓練給付制度の指定講座になっていますので、受講料の補助も得られます。

本冊子をお読みいただき、NPコースへの入学や受験生の推薦をお考えいただけますと幸いです。NPの活躍で、大分県の医療と看護の質が向上し、大分県民の健康と暮らしの質の向上に寄与できることを願っています。

大分県立看護科学大学

理事長・学長 麻原きよみ

診療看護師 (NP) とは (日本NP教育大学院協議会)

NP教育課程を修了し、NP資格認定試験に合格した者で、患者のQOL向上のために医師や多職種と連携・協働し、倫理的かつ科学的根拠に基づき一定レベルの診療を行うことができる看護師

診療看護師 (NP) に必要とされる能力 (7つのコンピテンシー)

1. 包括的健康アセスメント能力
Comprehensive Health Assessment
2. 医療的処置マネジメント能力
Medical Procedures and their Management
3. 卓越した看護実践能力
Excellence in Nursing Practice
4. 看護マネジメント能力
Nursing Management
5. チームワーク能力
Teamwork
6. 保健医療福祉制度の活用・開発能力
Development and Utilization of Health and Welfare Systems
7. 倫理的実践能力
Ethical Practice

NPコースではプライマリ領域のNPを養成

医学教育を強化した 修士課程NP教育 (55単位以上)

- ・基礎となる理論 7単位
- ・基礎となる医学知識 14単位
- ・特定行為技術12単位
- ・統合力 5単位
- ・臨床実習 17単位

特定行為研修

在宅・慢性期領域パッケージ
救急領域パッケージ
オプション19 特定行為
17区分31特定行為

入学要件:看護基礎教育+実務経験5年以上

1. 看護職としての高い資質と倫理観を持ち、病む人やその家族のQOL向上のための思考ができる人
2. 看護実践の科学的な根拠を探究し、自己研鑽しつづける意志と学習意欲をもつ人
3. 協調性と自律性をもち、チーム医療の中で看護実践できる人間関係能力をもつ人
4. プライマリ・ケア領域での医療に貢献する意志がある人

★ 地域枠では、上記に加え次のような人材を求める《地域枠要件は応募要項参照》

1. 大分県の医療に貢献する意志がある人

NPの質の担保・向上の取り組み

1. 大学院在籍中の試験

実習に先立ち、OSCE (Objective Structured Clinical Examination: 客観的臨床能力試験) を含む実習前試験を行い、合格した場合でないと実習を受けることができない。

2. NP資格認定試験

NPのコンピテンシーに関連した知識・技術などを習得し、NP資格授与に値することを確認するための資格認定試験に合格し、「診療看護師 (NP)」の認証が受けられる。

3. NP資格の更新

NPの資格更新制度 (5年ごと) に実施され、5年間の活動実績に関して書面審査を行い、NPに必要とされる能力を満たしていることの確認を行っている。

4. 各施設での研修

2年間の大学院修士課程において習得できる知識・技術には限りがあるため、就職先の医療機関に1~2年の研修をお願いしている。多くの病院では、指導医のもとで、総合診療部、救急部、外科、内科、手術室などの診療科を3~4か月でローテーションする研修を取り入れている。(修了生3名の例)

在学中の働き方のご紹介

	年次	M1		M2		
		前期	後期	前期	後期	
学生	履修スケジュール	科目履修 課題研究 口頭試問6月	科目履修 課題研究 口頭試問9・12月	科目履修 特定行為実習(4月~8月) 実習前試験(筆記・OSCE) 課題研究	NP実習(9月~12月) 課題研究発表 修了試験(学内) NP資格認定試験 (特定行為補講実習)	
入学時の勤務状況	A学生	大分県内で常勤	講義に合わせてシフト調整 (深夜勤務明け・早出・年休など)	4月から開始の実習のため休職	NP資格認定試験終了後から復職 (時々夜勤勤務)	
	B学生	大分県内で常勤	講義に合わせてシフト調整 早出・年休・出張扱い	4月のみシフト調整で実習と演習 実習期間中のみ休み	実習修了後(12月)から勤務開始 試験直前だけ年休	
	C学生	大分県内で常勤	講義に合わせてシフト調整 課題試験などの状況をみて夜勤のみ	M2から1年間休職		
	D学生	大分県内で常勤 入学時から時短勤務	講義に合わせてシフト調整 (深夜勤務明け・早出・年休など)	M2から休職 NP資格認定試験終了後から復職		
	E学生	大分県内で常勤	2年間休職にて学業専念			
	F学生	大分県内退職し進学	M2の4月実習開始まではパートや短期のアルバイト・就職活動		実習終了後(12月)から 短期アルバイト	
	G学生	県外から通学	対面講義演習に合わせて年休 オンライン講義の時は通常勤務	2年次から休職	実習終了後(12月)から復職	
	H学生	県外病院を休職	休職にて学業専念		資格試験終了後から復職	

修了生の研修について（修了生3名の例）

<p>研修目標</p>	<p>病態生理を理解したうえで、 判断力、実践力、特定行為のスキルを身につける。他職種の特性を理解し、看護師としての経験、コミュニケーション能力を生かして医療チームとしての連携を図る能力と人間性を身につける</p> <p>1) 指導医の指導下で初期診察及び継続診察において生活状態や病状について医療面接、視診、打診、触診、聴診を実施し、必要な検査を行う 2) 指導医の指導下で病状に応じた治療計画を立案できる。 3) 指導医の指導下で病状に応じた治療計画を立案できる。 4) 他職種との連携や調整ができる。 5) 倫理観を持って実践を行うことができる。</p>	
	<p>研修スケジュール</p>	<p>研修内容</p>
<p>Aさん</p>	<p>指導医の担当患者と外来(救急)対応および特定行為研修等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月曜日 午後～内科カンファレンス (医師-病棟スタッフ-セラピスト-薬剤師合同) ・木曜日 午後～糖尿病カンファレンス 午後から検査課で腹部エコー研修 ・金曜日 午後～内科カンファレンス (医師-病棟スタッフ-セラピスト-薬剤師合同) ・内科医合同カンファレンス 	<p>①各カンファレンスの中で、医療課題があり、かつ在宅で継続介入が必要な患者を抽出し、病棟や外来、訪問看護、ケアマネージャーと連携し継続介入を行う</p> <p>②療養支援室所属の診療看護師として、随時院内や地域の多職種からのコンサルテーションを受ける</p> <p>*顔の見える関係づくりが必要 *多くの業務を抱えていたので、エコーの研修などは延長を申し出て、今現在でも、いつでも学べるように交渉している。</p>
<p>Bさん</p>	<p>研修期間： (1 診療科 3 カ月ごとにローテーション)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詳細な期間やローテーション計画は、各指導医の承諾が得られ次第立案 <p>診療科の選定：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数名の医師が在籍する診療科に関しては、統括指導医らと共に検討して決定 	<p>①指導医に同行し、行われる診療を指導医と共に検討・実施する。</p> <p>②電子カルテへの記載は「看護師」として行う。NPが入力した薬剤、検査オーダーなどは指導医に「承認」を頂く。</p> <p>③判断できないことに関して指導医へ相談する。</p> <p>④担当症例は、指導医へプレゼンテーションする。</p> <p>医療安全に関して： 院内医療安全フローシートを作成して実施する。</p>
<p>Cさん</p>	<p>初年度： ・総合診療科 6か月、救命救急センター6か月</p> <p>2年目： ・総合診療科 3か月 救命救急センター2か月 ・小児科6か月(NICUと半々)、形成外科1か月</p>	<p>①総合診療科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受け持ち患者回診、総合診療科カンファレンス ・担当医とともに入院患者、新患・急患患者対応 ・主治医とのディスカッション ・各種オーダー(検査、他科コンサルト、栄養等)の学習 ・動脈血採血等の特定行為、血液培養採取、超音波検査など ・栄養管理、転院調整、転院搬送付き添い、診療録の記録、サマリー記載など ・カンファレンス、回診、記録 <p>②救命救急センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新患カンファレンス(プレゼン7分) ・病歴、フィジカルアセスメント、検査結果 ・プロブレムリスト、アセスメント、診療計画

地域医療の充実を目指した活動 ～訪問看護ステーションの看護管理者としての実践を通して～

医療社団法人中津胃腸病院 訪問看護ステーションいちょう並木

診療看護師(NP) 光根美保

活動の拠点の大分県中津市は、大分県北部に位置し、大分市、別府市に次いで、3番目に人口が多い約83,000人の市であり、活動地域は当院より15km圏内で、中には車で40分くらいの高齢化率50.8%の山間部の水害が多い耶馬溪町も含まれている。

現在112床の地域密着型中小規模病院、訪問診療センターと連携し、訪問看護ステーションに所属し、管理者、診療看護師として活動している。

【訪問看護の実践】

地域の医師との信頼関係に基づき、医療依存度の高い患者が安心して在宅療養を継続できるように支援を行っている。

- ・ NPが訪問看護ステーションに所属することで、難病、がん終末期・非がん終末期など医療依存度の高い利用者の依頼が多く寄せられている。これはステーションの専門性を示す強みとなり、地域における役割を担うことに繋がっている。
- ・ NPは地域の様々な事業所や多職種と連携し、患者・ご家族に寄り添いながらQOLの向上や、後悔しない終末期の看取りを支援している。
- ・ 訪問では、患者を一人の生活者として捉え、日常生活の中で疾病の管理や状態悪化の予防に取り組んでいる。また、状態が悪化した際には医師と連携し、タイムリーに対応することで、患者のQOLの向上と、悔いのない在宅療養の継続を実現できると考える。
- ・ 終末期、看取りの看護では、病状を患者・ご家族の理解度に合わせて丁寧に説明し、会話を重ね、ご家族の思いに配慮した看護を提供することで、ご家族が後悔しない看取りへの支援が実現できると考える。地域のクリニック医師と情報を共有しながら連携を図ることで、医師の負担軽減にもつながっている。このような看取りを多く重ねる中で、在宅医が不足している地域医療において、診療看護師は極めて重要な役割を担っていると実感している。

【法人内の老人施設への定期訪問・随時対応】

体調不良の入居者に対し、マネジメントや創傷・褥瘡・皮膚トラブルの対応を行っている。入居者の多くは複数の基礎疾患を抱えるハイリスクな高齢者であり、NPが定期的に訪問し、状態を把握・早期に介入することで、重症化の予防につながっている。また施設内で創傷・褥瘡・皮膚トラブルの管理が可能になったことで、通院回数の減少や受診に伴う身体的負担の軽減、スタッフの業務負担の軽減にもつながった。

創傷管理が必要な患者のオンライン診療(D to P with N)を試みている。

【在宅で行う特定行為】

在宅では特に脱水症状に対して、輸液による補正は多く経験する。行う特定行為は必要な看護ケアとして実践しているが、特定行為の実践よりもこだわっているのは、科学的根拠に基づいたアセスメントや臨床推論であり、時にはポータブルエコーを使用して褥瘡の深さの判定や残尿測定など行い、正確に状態を把握することを大事にしている。



訪問中の光根氏

【まとめ】

これらの活動を通して、診療看護師は、地域の様々な医療スタッフと連携するゲートキーパーとなり、地域医療において、医療の隙間を埋める重要な役割を担っていくと確信している。

これからも地域の中で実践を重ね、活動の成果を示すことは、診療看護師の認知や制度の発展、日本の看護職の自律や質の向上に寄与できると信じ、NP 1期生としての使命を果たせるよう努力を続けたい。



重症心身障害児者施設の小児診療看護師の活動

所属 社会福祉法人別府発達医療センター
看護部 主任 診療看護師 後藤 愛

【重症心身障害児者への診療看護師として】

重度の運動機能障害と重度の知的障害をあわせ持ち生活している重症心身障害児者の方々に對して、看護は一般的な医療的なかかわりだけではない、生命と生活を支えるという役割を果たす必要がある。重症心身障害児者の診療看護師は様々な個別性のある対象者の、より良い生活を医療と生活を両輪として支える役割が必要であり、重症心身障害児者に関わる医師や看護師など多職種を支えられるような、柔軟性と順応性のある活動を目指している。

【重症心身障害児者への診療看護師の活動について】

病棟所属ではなく、横断的な活動を実施している。

1. 病棟活動

- ・ 皮膚のケア計画の立案: 医師とともに薬剤の選択や業務負担を考えたケア計画の立案
- ・ 特定行為の実施、体調不良者の対応、感染拡大の初期対応、検査対応 など

2. 外来、地域連携、訪問看護、療養通所介護、放課後等デイサービス

- ・ 外来では利用者さんの注入や食事、皮膚ケアなどの日常生活の困りごと相談に対応。
- ・ 地域連携では、在宅や病院からの入所が円滑になる様に調整を実施した。
- ・ 療養通所介護や放課後等デイサービスの利用者が帰宅した後や休日の際に、訪問看護師として勤務し、保護者と施設側の間をつなぐ役割をした。

3. 委員会や外部活動

- ・ 教育委員：新人教育を中心として、研修プログラムや指導計画案の立案、看護師のキャリアパスを作成して、成長目標の指針や人事考課での目標設定へ活用している。
- ・ 褥瘡委員会での物品管理や購入、摂食機能WG、RST、NSTなどの参加
- ・ 安全管理や事故対応、感染、医療機器などのマニュアル作成
- ・ 看護協会、訪問看護などでの重症心身障害児者に関する研修や学会発表やシンポジスト等で重症心身障害児者看護の普及活動
- ・ 認定看護師教育課程などの講師

特定行為の実施

<ご家族からの胃瘻交換への反応>

- ・ 遠方の病院に行かずにすむ
- ・ 待ち時間が少なくていい
- ・ 定期診察後に実施できる



<院内システム構築> 感染拡大時の連絡手段としての Teamsの導入と活用



<院内の教育活動> 救急対応、人工呼吸器、研究の基礎、 教育等の講義を実施



指導医の
当直日などは
各種検査も実
施



<院外の活動> 小児を中心に医療的ケア、発達等の 講義を実施

高齢者の健康問題に着目した診療看護師の活動

医療法人畏敬会 井野辺病院 教育主任（取材時）

爪ケアサービス（社会医療法人 大分岡病院内） 診療看護師 安部涼子

井野辺病院における診療看護師の活動

私は、井野辺病院の看護部に所属し、病棟や外来、訪問看護を含めて横断的に関わっています。フィジカルアセスメントや症状マネジメントの実践を通じて指導を行っています。

また、リハビリテーション看護の一環として、高齢者の転倒要因の一つである足のトラブルに着目し、フットケアの活動を推進しています。

現在、井野辺病院に加え、大分岡病院内に開設している爪ケアサービスに月2日勤務し、兼業しています。



活動中の安部氏

1. 医療法人畏敬会 井野辺病院での活動

井野辺病院では、看護師と看護補助者の教育委員会、褥瘡委員会、排泄委員会、パーキンソン病リハケアサポートチームに所属しています。多職種と連携しながらICF（国際生活機能分類）の理念に基づき、退院後の生活を見据えた支援を行っています。また、訪問看護や外来では、看護師や施設スタッフに対し、創傷の観察や処置方法の指導を行っており、仙骨部の発赤に対しエアマットを施設スタッフと導入し重症化を予防できました。

回復期リハビリテーション病棟では、チームで排泄自立支援にかかわることで尿留置カテーテルの抜去数が増加でき、退院後の生活を想定した排泄支援を行っています。

フットケアに関しては、月に3~4件、医師や看護師、リハビリスタッフから爪トラブルの依頼があり対応しています。当院で対応が困難な巻き爪や創傷については、医師と相談し、専門医への紹介を検討しています。

また、訪問看護では爪白癬外用液の塗布に介助が必要な患者様に、自助具を作成し、塗布方法の指導を行っています。これまで3名に導入し、そのうち2名が自立できるようになりました。

2. 爪ケアサービス（大分岡病院内）での活動

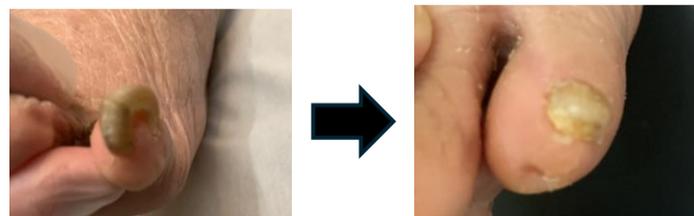
2020年、大分岡病院創傷ケアセンターの協力のもと、保険診療外の爪ケアサービス事業所を開設しました。現在、毎月第1・3水曜日に運営しています。

爪ケアサービスでは、病的でない方を対象に、爪切りや巻き爪の矯正を行い重症化予防に努めています。高齢者に爪ケアを行うことで、歩行時の疼痛が消失し歩行が楽になり、散歩や旅行などの活動や社会参加の継続ができています。

また、最近では、医師や診療看護師、看護・介護職の方から爪ケア研修の依頼があり、事業所で受け入れも行っていきます。



巻き爪矯正



肥厚爪の爪切り

3. まとめ

NPとして、井野辺病院では、看護部に所属し、症状マネジメントや退院支援など、教育的な関わりも含めて横断的に看護実践を行っています。

爪ケアサービスでは、大分岡病院創傷ケアセンターと連携しながら、足のトラブルの予防に努めています。高齢者が、地域の活動や社会参加が継続でき、より良い生活が楽しめるよう支援していきたいと思っています。

<看護マネジメント能力> を生かした看護管理者としての関わり

長崎県病院企業団体本部 総務部主幹(教育)
長崎県壱岐病院 患者支援センター長兼副看護部長
診療看護師(NP) 庄山由美

【主な実践と活動】

離島の中核病院で、臨床と看護管理者として活動している。また、長崎県病院企業団(以下、企業団とする)主幹として、企業団診療看護師(NP)の育成や、企業団看護部の教育に携わっている。

【看護職に対する看護研究支援】

看護の質向上のために、問題解決思考や研究支援を実施している。令和元年度から令和6年度の院内看護研究 38件のうち、診療看護師(NP)が看護師に研究支援した件数は33件であった。38件中28件は、研究成果が現在も看護実践に活用されているとの結果が出ている。診療看護師が、リサーチクエストを導く問いかけを日常で行いながら、看護職が気軽に研究の相談をしやすい環境を整えている。



令和4年度からは、病院組織として院内研究の年間研修プログラムを構築し、診療看護師(NP)が院内の看護職の研究支援者となり研究と実践の循環環境により、看護研究への取り組みが組織化されている。

【診療看護師(NP)の教育体制整備】

企業団病院には7名の診療看護師(NP)が各基幹病院に配属されている。卒業研究プログラムを作成し、関連病院共通の指標で教育体制の整備を実施した。

【診療看護師(NP)の育成】

令和6年度には診療看護師交流会を開催し、活動の可視化と評価を行った。

(それぞれの診療看護師(NP)の活動)

- ① 特定行為よりも多職種からの相談やチーム活動、退院支援、地域活動や教育等
- ② 離島ならではの他施設の訪問医による訪問診療への同行

(活動の成果)

- ① 患者の早期回復や退院後のフォローにより、入院に至らないケースの増加
- ② 院内外が多職種と連携がとれていること
- ③ 他施設の医師とも情報共有できていること
- ④ 企業団病院から診療看護師(NP)を目指すスタッフがでてきていること

看護管理職である診療看護師(NP)として、各施設で活動する診療看護師(NP)が不安なくのびのび活動ができるよう、また、多職種との連携を強化できるような離島チーム医療の支援者となり育成してる。

臨床推論やアセスメント能力の教育として日々の判断やアセスメント・予測や方向性などのアドバイスを行って、自律できるような教育を実践している。



【今後に向けて】

診療看護師(NP)が、看護研究を効果的に推進できるシステムを構築し、リサーチクエストを導く支援や看護研究に関わることで、スタッフは日常業務で研究成果を活用し、質の高い看護が実践できると考えている。

さらに、診療看護師(NP)が看護管理者として、組織的にそれぞれの現場の状況を俯瞰して理解することで、看護の質向上に取り組む組織が円滑に効率的に機能し、患者にタイムリーな看護や医療の提供が可能になるのではないかと考えて組織作りに励んでいる。



地域に根ざし、つなぐ力を発揮する診療看護師(NP)

ー 地域医療支援病院での実践 ー

臼杵市医師会立コスモス病院 看護部／地域連携室

診療看護師(NP) 上野聖子

【地域医療を支える】

臼杵市の地域医療支援病院で、診療看護師(NP)は地域連携室に所属し、多職種や関係機関と連携しながら、患者・家族・地域を支える医療を実践しています。これまでの看護師としての視点を生かし、生活と医療の両面から関わっています。

【高齢者の複雑な病態への対応】

高齢化が進む臼杵市では、複数の疾患や加齢に伴う変化で症状が複雑なケースが多くみられます。病態の整理、症状マネジメントやケアの提案を通じて、一人ひとりに応じた療養支援を行っています。

【多職種連携によるチーム医療の推進】

多職種からの相談に対応し、それぞれの専門性が発揮し活かされるよう患者を中心としたチームの調整役としての役割を担っています。また病院内では呼吸ケアチームに所属し、チームの多職種で協働し、病院内だけでなく在宅においても呼吸ケアの質の向上にも取り組んでいます。

【意思決定支援への関わり】

受容支援や意思決定支援では、患者や家族の想いに寄り添いながら、治療や療養の選択を支える対話を重ね、患者にとってより良い選択につながるよう関わっています。

【在宅療養移行支援と在宅での特定行為の実践】

訪問診療や往診への同行、NPによる単独訪問を通じて、退院後の継続的な医療支援を行っています。現場で必要に応じて判断し、特定行為を実施することで、急変リスクのある方や医療ニーズの高い方も、住み慣れた場所でそのひとらしく過ごすことができるよう支援しています。

【地域との連携と支援体制づくり】

地域の診療所や介護・福祉事業所との連携に加え、臼杵市で進められているICT「うすき石仏ねっと」の活用や、大分県より委託された「人生会議を考える大分県民の会(ACP大分)」での活動を通して、地域全体での意思決定支援や多職種連携体制の構築、地域全体で支える体制づくりに取り組んでいます。

【教育と人材育成への取り組み】

NPとしての実践に加え、大分県立看護科学大学 NPコースで非常勤講師や実習指導を担当して、地域医療を担う人材の育成にも力を入れています。

【今後に向けて】

今後も多職種連携を深めながら、地域に必要とされる医療のかたちをともに築いていきたいと考えています。



地域中核病院での複数診療看護師(NP)の活動



津久見市医師会立津久見中央病院

診療看護師(NP) 岩崎正和 小野智佳子 戸高直哉

大分県

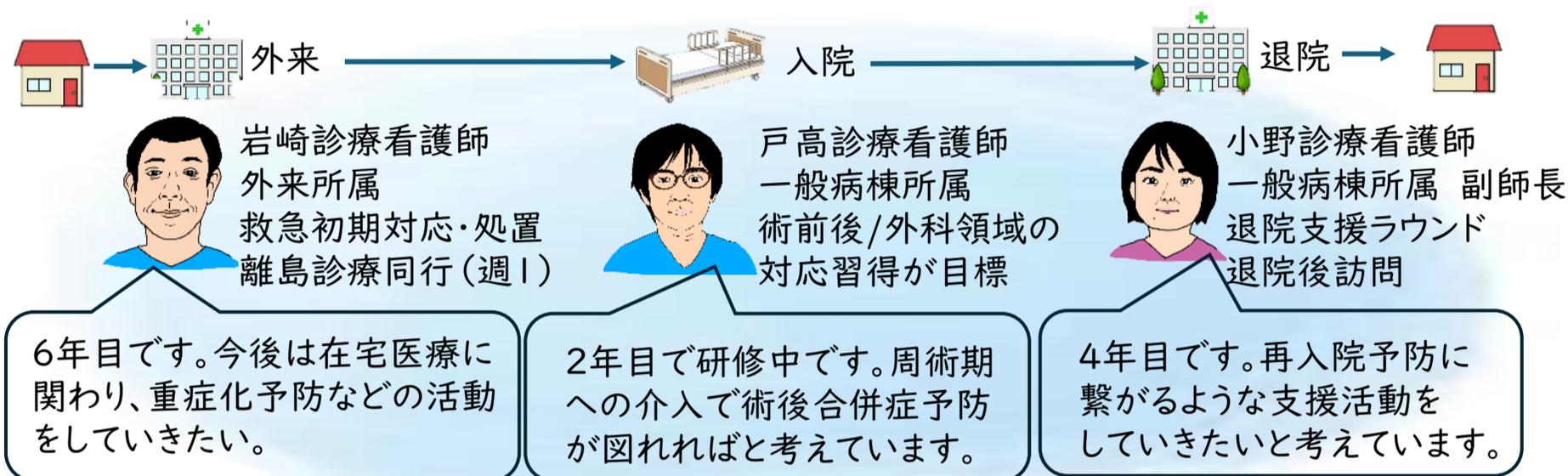


津久見市は大分県の県南に位置する少子高齢化が進む過疎市です。その中で津久見中央病院は市唯一の病院(120床)として機能しています。外来・入院患者のほとんどは津久見市在住の高齢者となっています。



現在3名の診療看護師(NP)が看護部に所属し外来→入院→退院のそれぞれの場面で関わられるような体制整備をすすめています。また入院前の地域へ出かけたり、退院後の訪問なども行い、津久見市の高齢者が安心して地域で生活できるための支援を充実させていきたいと考えています。診療看護師(NP)として各部署で切れ目のない連携した活動を目指しています。

切れ目のない連携を目指した体制



所属部署で通常の看護師業務を行いながら活動日を決めて診療看護師(NP)活動をしています。看護部の部署所属であることで看護スタッフにとって身近な相談役となれています。活動内容は毎月月報としてまとめ看護部長へ報告する体制があり成果の可視化ができます。

日常的に行う診療看護師(NP)の実践

- 病棟で1~2名の患者を入院から退院まで担当し通常の看護業務に従事している
- 外来では救急搬送患者の初期対応や通常の外来看護業務に従事している
- 委員会活動(災害対策委員会・褥瘡委員会・FLS委員会・入退院支援会議・NST回診)
- 院内教育参画(BLS企画実施・新人研修講師・看護師ラダー別研修講師)
- 実習指導(NP実習・NPプライマリー実習・特定行為実習)
- 研究活動(NP学会や日本プライマリケア学会での研究発表)
- 特定行為の実施(動脈血採血・術後ドレーン抜去・PICC挿入や抜去)

診療看護師(NP)の合同活動日

診療看護師(NP)主体で実施(毎週水曜)

<p>全病棟の褥瘡ラウンド</p> 	<p>気管カニューレ・胃瘻交換</p> 	<p>認定・特定看護師協働 同じデスク室で連携しやすい環境</p> 	<p>医師や多職種と協働 退院支援ラウンドなど</p> 
---	--	---	---

院外活動

- 津久見市の医療・介護連携の委員活動(会議参加・研修企画)
- 津久見市看護ネットワーク「いるかんご」の研修講師
- ICLSコースのインストラクター/大分DMAT隊員
- 大分県の医療識者に対するフィジカルアセスメント研修講師

修了生の活動例（所属・委員会・チーム活動など）

総合病院（大学病院等）

所属部署	活動内容	委員会・教育支援・チーム活動など
高度救命救急センター	<ul style="list-style-type: none"> ・高度救命救急センター看護業務全般 ・RRTメンバー ・EICU勤務 ・救急外来勤務（6～9日/月） ・フライトナース（4～7日/月） ・特定看護師として活動（2日/月） 	<p>（委員会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定行為実務者会議 ・救急蘇生運用 ・事後検証部会（RRT・ハリーコール事例評価会） <p>（教育支援）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定行為研修指導に特定行為指導者 ・臨床実習では患者選定や助言、相談役 ・フィジカル I - II 研修 <p>（研究）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定行為セミナー発表
	<p>〈特定行為〉 ERで特定行為の導入、各診療科医師（救命救急科）部署師長と運用方法、手順書等の話し合い、実施、修正 活動日は特定行為優先として医師と活動</p>	
救急外来救急センター	<ul style="list-style-type: none"> ・新患・急患の初期対応 ・各種検査の実施、他科コンサルトオーダー ・救急当番（2回/月）出勤し、医師のタスクシフト、シェア業務 ・外来や入院患者の相談や指導の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・外科系病棟ラウンド ・化学療法センターのカンファレンス参加 ・消化器外科カンファレンス参加 <p>（委員会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・副師長会議に参加 （NPとして問題提案や依頼など随時相談） ・化学療法に関連した委員会
	<p>〈特定行為〉 CV挿入介助、PICC留置、Aライン採血、ルート確保 気管挿管と抜管の介助、人工呼吸器療法患者の検査移動介助</p>	
一般病棟	<ul style="list-style-type: none"> ・病棟での急変時の対応 ・外科系病棟のラウンドおよび包交、乳腺エコーの実施 ・看護師からの相談、教育指導など 	<p>（教育支援）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病棟勉強会 ・教育ラダー研修の講師 ・地域病院の新人看護師研修の講師
小児病棟	<p>（外来）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児科外来一般業務 ・新生児、乳児の採血、ルート確保 ・各種検査の実施 ・他科小児の術前採血、ルート確保依頼の対応 ・患者指導（医療的ケア指導、GH自己注射指導、アトピー性皮膚炎外用薬指導） <p>（病棟）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NICU退院調整（医療的ケア児コーディネーター） ・在宅管理移行に向けたケア管理に関する患者・看護師への支援 <p>（在宅）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケア児の在宅訪問、診療支援 ・訪問看護師からの相談対応、介入支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・小児科カンファレンス、回診の参加 ・県医療的ケア児コーディネーター <p>（委員会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養育支援チーム ・栄養サポートチーム（NST） <p>（教育支援）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院NPコース非常勤講師
	<p>〈特定行為〉 胃ろう交換 気管切開カニューレ交換</p>	
総合診療部	<ul style="list-style-type: none"> ・担当医と患者回診など ・新患・急患の初期対応 ・各種検査オーダー ・他科コンサルト ・転院搬送時付き添い 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染対策委員会・ICTチーム
手術室	<ul style="list-style-type: none"> ・麻酔科補助 	

地域中核病院（多施設保有）

所属部署	活動内容	委員会・教育支援・チーム活動など
外来	<ul style="list-style-type: none"> ・外来一般業務 ・発熱トリアージ ・救急搬送患者の初期対応や処置 ・初診患者の予診 ・外来患者の訪問看護指示書作成 ・化学療法患者のマネジメント ・各部署の相談にタイムリーに対応 (病状アセスメント、心不全の指導、褥瘡・創傷管理、薬剤管理 人工呼吸器管理、心電図波形の判別、退院指導 ペースメーカーチェック、特定行為の依頼などが多い) ・離島での診療補助や看護の実践 ・DMAT隊員 <hr/> <p>〈特定行為〉 動脈血採血、外科術後のドレーン抜去、気管カニューレ交換 胃瘻・膀胱瘻交換、CV抜去、人工呼吸器関連 PICC挿入・抜去、創傷関連デブリードマン</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・術前カンファレンス参加、術後回診の同行 ・NST回診の参加 ・褥瘡や創傷関連の相談や指導 ・退院支援 ・訪問看護の同行訪問、訪問看護指示書の作成 ・離島診療の同行 <p>(委員会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染対策委員会・ICTチーム ・医療機器委員会 ・NST ・業務委員会 ・災害対策委員会 ・褥瘡委員会 ・FLS委員会 ・入退院支援委員会 ・医療介護連携の委員活動
手術室	<ul style="list-style-type: none"> ・手術室の一般業務 ・手術の直接介助、間接介助 ・腹腔鏡下手術のスコーピスト ・術前カンファレンスの参加 ・術前面談や訪問 	<p>(教育支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護部主催の勉強会 ・診療看護師業務基準/手順作成 ・特定行為手順書を作成 ・BLS企画実施 ・新人研修教育、看護師ラダー別研修の講師 ・院内研修の講師(新人、BLS) <p>(研究)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NP学会 ・日本プライマリー学会 研究発表
病棟	<ul style="list-style-type: none"> ・循環器領域の実践 ・状態悪化時のアセスメントと初期対応 ・褥瘡・創傷管理ケアの実践と相談対応 ・化学療法患者のマネジメント ・退院後訪問 ・病棟や訪看スタッフからの相談対応 <hr/> <p>〈特定行為〉 胃ろう交換など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症ケア委員会 ・呼吸リハビリテーションチーム
緩和ケア病棟	<ul style="list-style-type: none"> ・退院後訪問、みなし訪問看護 ・がん性疼痛マネジメント ・意思決定支援 ・ターミナルケア 	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅緩和医師との連携 ・緩和ケアチーム
地域包括ケア病棟	<ul style="list-style-type: none"> ・入院時検査オーダー ・状態悪化時のアセスメントと初期対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅医師との連携
地域連携室	<ul style="list-style-type: none"> ・入退院の調整 ・病院内外との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・退院支援チーム
救命救急センター	<ul style="list-style-type: none"> ・ER業務、タイムリーにNPの要請のあった実践 ・ER walk inの患者の診療補助(問診、身体診察) ・ERで行われる創傷治療処置の実践 ・患者への生活上の注意や自己ケアの指導 ・褥瘡の治療管理とケア <hr/> <p>〈特定行為〉 動脈血採血、気管カニューレの交換、腹腔ドレーンの抜去 胃瘻カテーテルの交換、末梢型中心静脈カテーテルの挿入 中心静脈カテーテルの抜去、人工呼吸器からの離脱</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・救急科医師の回診に同行 ・褥瘡回診 (医師、WOC、栄養管理士、セラピスト、看護師と協働し、難治創傷の治療管理とケアの指導)

老人保健施設等

所属部署	活動内容	委員会・教育支援・チーム活動など
老人保健施設	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職員の教育的関わり ・急変時の対応、入院の判断、病院との連絡調整 ・チームで看取りの看護、看取りケア実施 ・ポリファーマシーに関する取り組み ・褥瘡管理 ・医療依存度が高い方への早期介入 ・家族との相談窓口 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者や家族との相談窓口 (多職種と共有しながらケアできるようチームでの取り組み) <p>(委員会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務改善委員会 ・褥瘡委員会 ・感染委員会 <p>(研究)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大分県病院学会 ・全国老健大会 ・日本NP学会学術集会
	<p><特定行為> 動脈血採血、胃瘻交換、デブリドマン 感染症に対する抗菌薬の臨時投与 抗けいれん薬の臨時投与、抗精神薬の臨時投与 輸液の調整、インスリンの調整 など</p>	
医療福祉施設 (小児)	<ul style="list-style-type: none"> ・病棟所属ではなく横断的な活動を実施 ・体調不良者の対応 ・感染拡大の初期対応 ・皮膚のケア(医師とともに薬剤の選択やケアの立案) ・検査対応 <ul style="list-style-type: none"> ・外来(日常生活の困りごとの相談) ・地域連携(在宅や病院からの入所などの調整) ・療養通所介護、放課後デイサービスの利用者さんの訪問看護 (保護者と施設側の間をつなぐ役割) 	<ul style="list-style-type: none"> ・病棟、外来、訪問看護、療養通所介護、 放課後デイサービスなど 地域と連携し、それぞれをつなぐ役割 <p>(委員会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・褥瘡委員会 ・摂取機能WG、RST、NST ・安全管理、事故対応、感染、医療機器など マニュアル作成 <p>(教育)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会(新人教育、研修プログラムや指導) ・重症心身障害児者看護の普及活動 <p>(研究)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重症心身障害児者に関する研修、学会発表
	<p><特定行為> 胃ろう交換など</p>	

訪問看護ステーション

所属部署	活動内容	委員会・教育支援・チーム活動など
単独型	<ul style="list-style-type: none"> ・主治医との連携による看取りケアの実施 ・身体所見の確認 ・健康アセスメント実施してQOLの維持・向上を図る ・症状アセスメント実施して病院受診の判断や説明 	<ul style="list-style-type: none"> ・褥瘡回診 ・訪問診療に同行 ・訪問看護師との情報共有 ・多職種との連携 <p>(委員会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・褥瘡・NST委員会 <p>(研究)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緩和ケア研究会、事例発表 <p>(教育活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育支援(新人・クリニカルラダーⅡ) ・看護学生の実習受け入れ、指導
病院併設型	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護業務 ・管理者業務 ・ターミナルケア ・医ケア児の訪問看護 ・病院受診や往診依頼の判断、本人や家族への説明 ・症状アセスメント ・病院、ステーション、他施設からの相談窓口 (褥瘡、創傷処置、胃瘻管理など) ・サテライト事業所との合併に際する改革業務 <p><特定行為> 気管カニューレ交換、胃瘻交換、動脈血採血 膀胱瘻カテーテル交換、血流のない壊死組織の除去 脱水症状に対する輸液による補正、腹部ドレーン抜去 褥瘡の管理(デブリートマン、軟膏選択)</p>	

NPの活動に対する評価

(日本NP学会学術誌:<https://www.js-np/journal/>)

【看護部長、同僚看護師の評価】

- ・NPが院内で実施する研修により看護師のフィジカルアセスメントや病態に関する知識・技術が向上した。

【医師の評価】

- ・医師数が減少した時期においても、診療を持続することが可能であった。
- ・医師が手術など不在時でも診療を滞りなく進められた。
- ・医師の時間外労働が短縮した。
- ・医師でなければできない業務に専念することができた。
- ・チーム内で余裕を持った勤務シフトが組め、緊急手術や救急患者に迅速かつ柔軟に対応が可能となった。

日本NP教育大学院協議会

会員校は 19 大学院

大学院同士が連携し
情報交換を行っています。



2025年4月現在



NPコース修了生就業状況(2025年4月現在) 計92名

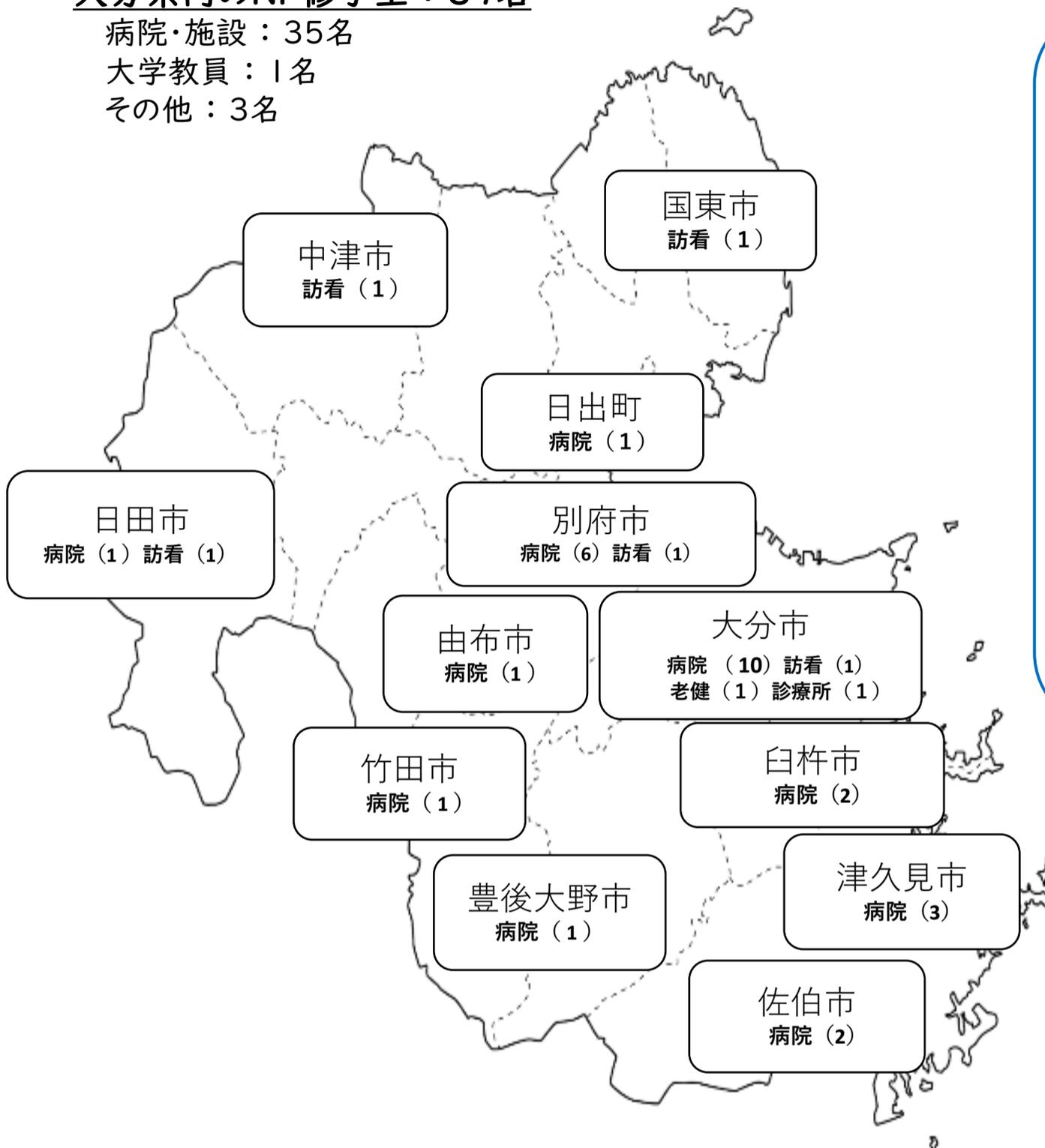
全国の就業者(大分県を除く)

大分県内のNP修了生：39名

病院・施設：35名

大学教員：1名

その他：3名



- 東京都(3): 病院(1) 診療所(1) 教員(1)
- 千葉県(1): 診療所(1)
- 埼玉県(2): 病院(1) 薬局(1)
- 神奈川県(2): 病院(2)
- 愛知県(3): 病院(2) 訪看(1)
- 京都府(1): 病院(1)
- 滋賀県(1): 病院(1)
- 大阪府(3): 病院(3)
- 兵庫県(2): 病院(2)
- 広島県(2): 病院(2)
- 島根県(1): 病院(1)
- 愛媛県(1): 訪看(1)
- 和歌山県(1): 病院(1)
- 山口県(1): 病院(1)
- 福岡県(13): 病院(10) 訪看(2) 教員(1)
- 鹿児島県(4): 病院(4)
- 長崎県(6): 病院(6)
- 宮崎県(1): 病院(1)
- 佐賀県(1): 病院(1)

合計49人
その他(4)

全国のNP修了生

県内 39人
県外 49人
その他 4人

NPコース修了生
合計 92人

奨学金について

【専門実践教育訓練給付制度】

本学NPコースは現在令和7年4月1日から令和10年3月31日までの3年間、「専門実践教育訓練給付制度」により、厚生労働大臣指定講座として指定されています。支給要件を満たした大学院生には、学費の一部が支給されます。

【特待生授業料免除】

本学修士課程の全入学者のうち、6名以内に対して2年次後期分の授業料を免除します。